

来園者状況

※前日までの人数を配布

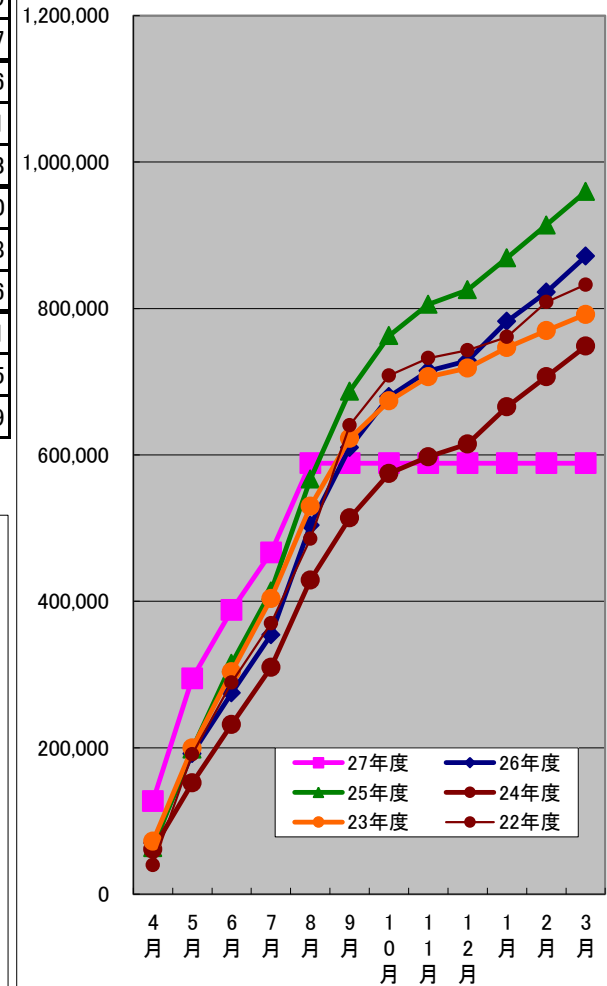
◆月別合計入園者数比較

※夜間、後納分を含む。

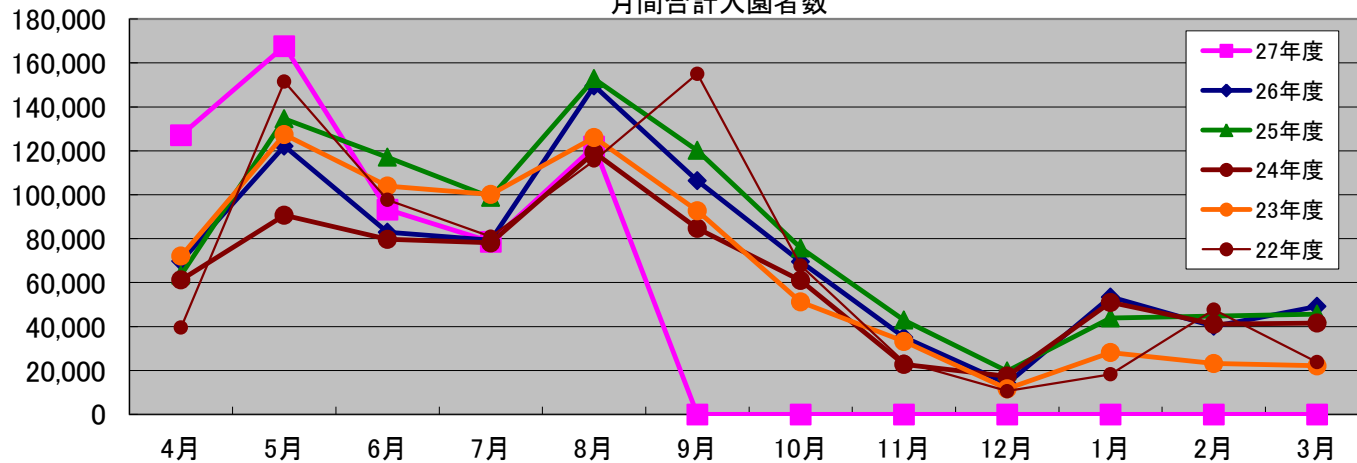
◆累積グラフ

月計	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	累計	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度
4月	127,120	69,728	63,370	61,201	72,066	39,570	4月	127,120	69,728	63,370	61,201	72,066	39,570
5月	167,599	122,124	134,584	90,717	127,432	151,529	5月	294,719	191,852	197,954	151,918	199,498	191,099
6月	93,286	82,960	117,092	79,708	103,931	97,718	6月	388,005	274,812	315,046	231,626	303,429	288,817
7月	78,626	79,250	98,812	78,076	100,141	80,939	7月	466,631	354,062	413,858	309,702	403,570	369,756
8月	122,004	149,537	152,823	119,222	126,030	115,635	8月	588,635	503,599	566,681	428,924	529,600	485,391
9月	0	106,375	120,151	84,731	92,733	155,072	9月	588,635	609,974	686,832	513,655	622,333	640,463
10月	0	69,560	75,758	60,943	51,146	67,797	10月	588,635	679,534	762,590	574,598	673,479	708,260
11月	0	35,106	42,884	22,735	33,220	23,888	11月	588,635	714,640	805,474	597,333	706,699	732,148
12月	0	14,027	19,729	17,388	11,613	10,588	12月	588,635	728,667	825,203	614,721	718,312	742,736
1月	0	53,429	43,829	50,974	28,127	18,255	1月	588,635	782,096	869,032	665,695	746,439	760,991
2月	0	40,055	44,759	41,065	23,202	47,634	2月	588,635	822,151	913,791	706,760	769,641	808,625
3月	0	49,129	45,640	41,561	22,113	23,794	3月	588,635	871,280	959,431	748,321	791,754	832,419
合計	588,635	871,280	959,431	748,321	791,754	832,419	前年度比	67.6%	90.8%	128.2%	94.5%	95.1%	-
H17比	119.9%	177.5%	195.4%	152.4%	161.3%	169.6%							

累計入園者数



月間合計入園者数



経理状況

1 歳入

(単位：千円)

年度	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014) 予算	26 (2014) 決算(見込)
	実績値								
入園料	167,018	191,258	274,494	214,254	213,890	192,335	252,143	283,676	229,135
広告料	1,945	2,213	1,748	1,901	800	2,568	1,956	1,938	1,430
寄附金	8,568	10,432	23,724	15,934	12,882	21,708	28,692	19,233	11,877
公園使用料	21,383	26,589	25,267	18,729	10,953	11,132	10,768	9,191	9,609
雑収入	6,661	7,563	9,311	9,486	6,477	7,281	6,903	6,313	8,082
歳入合計	205,575	238,055	334,544	260,304	245,002	235,024	300,462	320,351	260,133
前年度比	-	115.80%	140.53%	77.81%	94.12%	95.93%	127.84%	106.62%	86.58%

2 経常経費（人件費・整備費を除く）

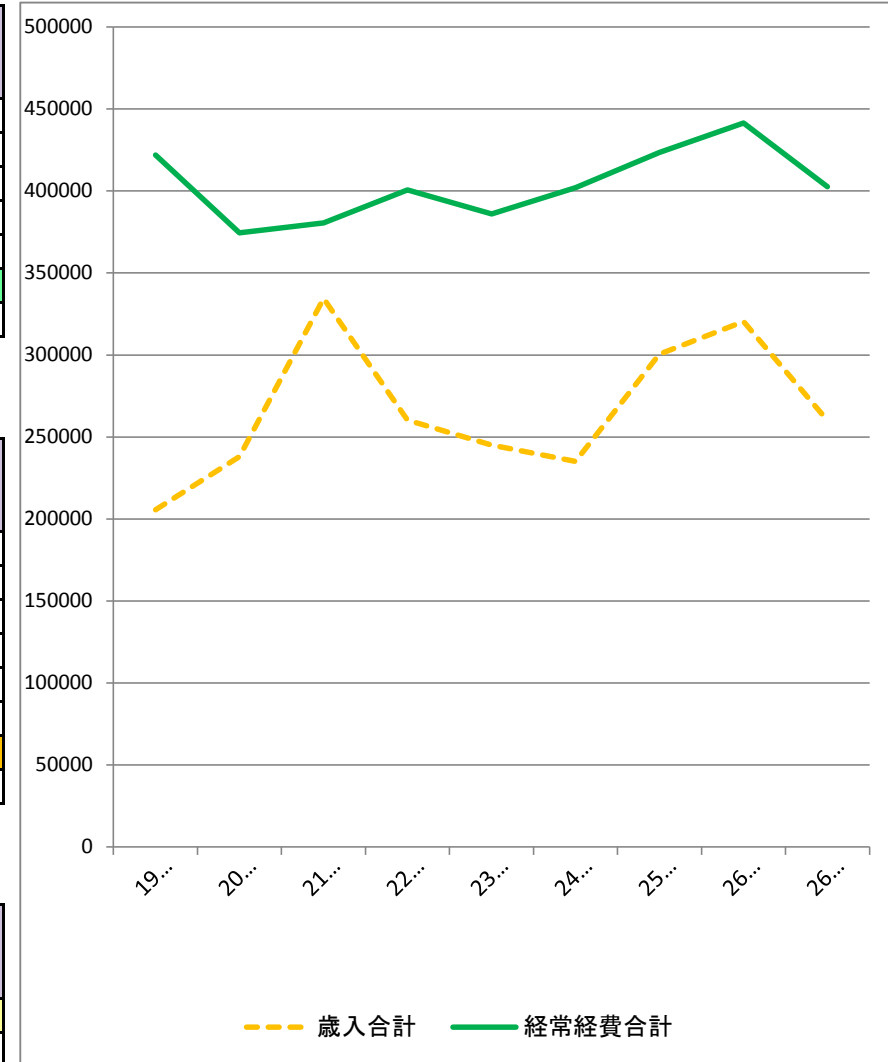
(単位：千円)

年度	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014) 予算	26 (2014) 決算(見込)
	実績値								
上下水道料	68,468	65,518	71,553	70,927	64,062	60,358	60,062	64,802	59,179
重油・灯油代等	76,530	51,010	45,082	55,699	64,012	60,241	58,551	68,769	53,098
電気・プロパン代	21,834	23,526	20,918	22,979	27,113	26,956	29,355	33,735	32,654
維持管理・委託費	199,131	183,932	190,633	196,549	171,192	193,249	212,115	213,636	198,162
エサ・薬品代	34,448	31,529	31,991	36,095	42,425	41,092	41,186	43,262	40,362
イベント・事務費	21,522	18,959	20,374	18,366	17,217	20,235	22,231	17,214	19,112
経常経費合計	421,933	374,474	380,551	400,615	386,021	402,131	423,500	441,418	402,567
前年度比	-	88.75%	101.62%	105.27%	96.36%	104.17%	105.31%	109.77%	95.06%

3 歳入－経常経費（人件費・整備費を除く）

(単位：千円)

年度	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014) 予算	26 (2014) 決算(見込)
	実績値								
合計	△216,358	△136,419	△46,007	△140,311	△141,019	△167,107	△123,038	△121,067	△142,434
前年度比	-	63.05%	33.72%	304.98%	100.50%	118.50%	73.63%	72.45%	115.76%



※ 参考（平成26年度決算見込）

人件費：346,026千円

整備費：1,610,475千円（うち前年度からの繰越 205,079千円）

平成 27 年度 予算等概要

資料 2 - 2

(1) 歳入

(単位 千円)

科目	27 年度予算	26 年度決算	26 年度予算	26 増減額	備考
入園料	273,708	229,135	283,676	▲54,541	27 年入園者 1,000,000 人
売店使用料	9,767	9,609	9,191	418	
傷病鳥獣保護費	630	630	630	0	道委託金
寄附金	23,318	11,877	19,233	▲7,356	
広告料	2,938	1,430	1,938	508	パン、入園券裏面、ネーミングライツ
その他	6,357	7,452	5,683	▲1,769	売店光熱水費等
合計	316,718	260,133	320,351	▲60,218	

(2) 歳出

(単位 千円)

小事業名	27 年度予算	26 年度決算	26 年度予算	26 不用額	備考
合計	2,330,144	2,090,112	2,376,886	286,774	うち翌年度繰越 243,453
動物園運営管理費	619,451	464,539	504,405	39,866	
動物園運営管理費	617,960	463,719	502,905	39,186	
動物園経営費	518,012	447,758	486,379	38,621	
教育普及事業費	3,048	2,893	3,126	233	
大型動物導入検討調査費	-	6,131	5,000	▲1,131	
壁面アート等事業費	-	6,937	8,400	1,463	
アジアゾウ導入費	96,900	-	-	-	(2 定補正)
野生動物復元事業費	1,491	820	1,500	680	
野生動物復元事業費	1,491	820	1,500	680	
動物園整備費	1,710,693	1,625,573	1,872,481	246,908	
動物園整備費	257,112	43,166	39,393	▲3,773	
園内小規模整備費	22,912	15,542	20,393	4,851	
野生復帰施設繁殖研究棟整備費	-	27,624	19,000	▲8,624	
熱帯動物館解体工事費	234,200	-	-	-	(2 定補正)
動物園基本計画事業費	1,453,581	1,582,407	1,833,088	250,681	
アフリカゾーン建設費	184,294	1,466,265	1,654,516	188,251	うち翌年度繰越 184,294
サル山改修費	95,687	39,580	100,200	60,620	うち翌年度繰越 59,159
モンキーハウス改修費	0	56,190	58,000	1,810	
新ホッキョクグマ館建設設計費	0	20,372	20,372	0	
ホッキョクグマ・アザラシ館建設費	1,150,000	-	-	-	
アフリカゾーン開業準備事業費	8,000	-	-	-	
カンガルー館改修費	15,600	-	-	-	(2 定補正)

平成27年度の主な行事(予定)

●…新規事業

名称および日時	内 容
毎月第3水曜日 子育てサロン あおぞらinZ00	人形劇などを行う子育てサロン
● ホッキョクグマの赤ちゃんお披露目	平成26年12月21日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃん初お披露目
4月19日 飼育の日	4月19日の飼育の日にちなんで、ドキドキ体験を多数実施
5月2日～5月6日(計6日間) 円山動物園春まつり	キャラクターショー、〇×クイズなどイベントを多数実施
5月16日、17日、30日、31日 ● ホッキョクグマ〇×クイズ	ホッキョクグマの赤ちゃん誕生を記念して、ホッキョクグマにまつわる〇×クイズを実施。
5月17日～18日 第8回アースデイ円山動物園	円山動物園内を会場として「地球のことを考え行動する日」イベントを開催
5月23日 フレフレZ00種苗贈呈式	円山西町児童会館の子どもたちと市川造園から、野菜の苗を寄贈
6月13日 肉食デー	肉食動物に普段は食べない肉を特別に給餌
6月14日 大人の一日飼育係	16歳以上対象。飼育体験・飼育員との懇談・園内動物病院体験等
6月20日 雑食デー	雑食動物に普段は食べない肉・野菜・果物を特別に給餌
6月27日 草食デー	草食動物に普段は食べない野菜・果物を特別に給餌
7月1日～31日 動物愛護標語募集	園内動物科学館備え付けの用紙で募集(昭和40年度から実施)
7月11日～8月17日 第43回円山動物園幼児・児童動物画コンクール	札幌市内の幼児、小学校1年生～6年生を対象(昭和48年度から実施)
7月25日 ハーティナイト(障がい者夜の動物園特別招待)	障がいのある方を無料招待し、夜の動物園を楽しんでいただく内容。家族、介護者も無料招待
7月25日～8月31日 夏の特別展 ～古代生物展～	古代生物の化石を通じて、進化について学ぶ。
7月30日、8月1日、5日、7日 夏の一日飼育係	市内小学校4年生～6年生を対象。募集各日22名(昭和44年度から実施)
8月1日～31日 年パス学割キャンペーン	チケット販売窓口で学生証を見せてくれた方に、年間パスポートを半額で販売
8月1日～9月19日までの土曜日及び8月13日～14日 夜の動物園(計10回)	夜の動物生態を観察するため開園時間を延長して午後9時00分まで開園(昭和58年度から実施)
8月11日～12日 Z00ナイトキャンプ	小学4～6年生を対象とした動物園での宿泊学習
8月30日 ● ホッキョクグマ命名式	平成26年12月21日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃんの命名式
9月14日 フレフレZ00野菜贈呈式	市内児童会館の児童が収穫した野菜を動物園へ寄贈
9月19日～23日 秋まつり	動物への秋の味覚の特別給餌、大道芸人、ヒーローショー、ドキドキ体験を多数実施
9月21日 どうぶつ敬老の日	敬老の日にちなんで長寿動物に特別メニューを給餌(昭和42年より実施)
9月23日 ● サル山オープン	リニューアルしたサル山がオープン
9月25日 動物慰霊祭	平成24年9月1日から平成25年8月31日までの1年間に当園で飼育展示中に死亡した動物の慰霊祭(昭和50年度から実施)

名称および日時	内 容
9月26日 第43回幼児・児童動物画コンクール表彰式	7月11日～8月17日に応募のあった作品の中から3賞・金・銀・銅賞に選ばれた方への表彰
9月26日～10月26日 第43回円山動物園幼児・児童動物画コンクール入選作品展示	上記コンクール入選作品（3賞・金・銀・銅賞・佳作）を展示
10月1日 ● 新施設アフリカゾーンオープン	新施設アフリカゾーンがオープン
10月3日～4日 キノコ展	身近に生息するキノコとその解説を展示
10月11日～12日 サイエンZOO	動物たちの不思議に関する実験や、子どもから大人まで楽しめる様々な実験を実施
11月1日～3月31日 ちびっこ福引大会	中学生以下を対象に、期間中2回来園すると福引に挑戦できる
12月1日～1月31日 千支の特別展示	申年の2015年にちなんで、関連した動物を特集
12月19日 冬夜の動物園	開園時間を20時まで延長（冬の夜の動物園は、平成25年度から実施）
12月25日、27日、1月8日、10日 冬の日飼育係	市内小学校4年生～6年生を対象。募集24名（昭和46年度から実施）
1月1日～3日 正月3が日入園料無料	新年を祝し、入園料を無料とする
1月1日～3日 三が日縁起物配布	羊年にちなんで、ヒツジに関するアイテムを各日1,000名に配布
1月4日 ちびっこもちつき体験	小学生以下を対象にもちつきを実施
1月4日 つきたてもちのお汁粉サービス	先着500名にお汁粉を無料サービス
1月24日 雪中ジャンボカルタ	雪の上で動物に関するジャンボカルタ大会を開催
1月6日～3月31日までの毎月1回 飼育員カフェ	お茶を提供しながらの飼育員によるトークセミナー
2月1日 エコ豆まき	環境問題を題材にした寸劇とサル山への豆まき
2月5日～11日 円山動物園スノーフェスティバル	園内に氷の滑り台や雪像などを設置
2月7日 ファンタスティックナイトZOO	開園時間を20時まで延長
3月22日 円山動物園感謝デー	円山動物園に入園して下さった方々へのお礼・感謝を込めて、ドキドキ体験メニューの実施数を増やす他、飼育員によるトークセミナーを実施

事業	指標項目	当初値 (23年度)	実績値 (26年度)	進捗状況 (26年度)	計画値 (27年度)	目標値	27年度の主な事業計画内容	出典
円山動物園の存在意義を高める事業	1 札幌市の環境教育の拠点としての役割 【来園者の環境教育施策理解度】	64%	78%		80%	90% (28年度)	【レベルアップ】次世代エネルギーや循環型社会形成などの環境教育の場として活用できるような設備の設置。それぞれの設備に対するシステム・仕組みの解説などの展示実施 【レベルアップ】小学生から大人までの各世代に対応するメニューを盛り込んだワークブックの作成。課題クリア型の病院体験の実施	アースディアンケート
	2 北海道の生物多様性確保の基地としての役割 【保護した猛禽類毎年3羽以上放鳥】	1羽	1羽		2羽	3羽 (28年度)	【新規】市民団体と連携した国際ザリガニ学会の招致 【新規】猛禽類繁殖研究棟の建設着手 【新規】飼育個体の遺伝的多様性を保った各種猛禽類の繁殖推進。大学等研究機関と連携した人工授精技術の確立等、繁殖研究の推進	放鳥数
	3 多様なメッセージを発信するメディアとしての役割 【園内イベントの施策理解度】	42%	93%		93%	80% (28年度)	【新規】札幌国際芸術祭と連携した壁面アート展の開催 【レベルアップ】スノーフェスティバルの入園料無料化、広報PRの実施(入園者数27,000人を目指す) 【レベルアップ】SAPICA提示による抽選会を活用した公共交通機関の利用促進	主要イベントアンケート
円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業	4 「わたしの動物園」という視点からの行動 【アニマルファミリー20,000人】※廃止に伴い、新たに「サポートクラブ制度」創設	現行制度 796人	447人 ※25年末から新規募集停止	—	5,000人 ※新制度	20,000人 (28年度) ※新制度	【新規】10月1日に向けた新寄附支援制度の創設(会員10,000人目標) 【レベルアップ】ドキドキ体験メニューの定番メニューの拡充。週末定番メニュー等の事前告知化 【レベルアップ】ハーティナイト等、介助ボランティア活動の積極的展開 【レベルアップ】企業連携をPRする動物園HPへの掲載や営業用パンフレットを用いたクロスメディア戦略による周知	サポートクラブ会員数
	5 生物多様性の確保に向けた行動 【生物多様性の認知度】	33%	70%		70%	60% (28年度)	【レベルアップ】アースデイ、特別展、スネークアート展の他、サケ、クマなどに関する園内及び野外観察会・体験型イベントなど、年12回以上の特別展・体験プログラムの実施及びアンケート等によるプログラムの評価・見直しの検討	各事業時アンケート
	6 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動 【公共交通機関での来園割合】	39%	41%		50%	50% (28年度)	【新規】ラッピングバスを活用したシャトル運行についての検討	主要イベントアンケート
集客施設としての実力を高める事業	7-1 持続可能な経営戦略 【年間来園者数100万人】	79.2万人	87.1万人		100万人	100万人 (26年度)	【新規】モンキーハウスの改修完了による動物本来の生き生きとした姿の展示 【新規】札幌国際芸術祭と連動した園内壁面アート作品の展示、夜の動物園開催時におけるプロジェクションマッピングの実施 【新規】ラッピングバスの運行開始 【新規】観光客誘致のためのホテル向けリーフレット(日・英)の制作・配布 【レベルアップ】円山動物園春まつりの内容の拡充、道南までの広報エリア拡充及び早期複合的広報の実施	来園者数統計
	7-2 持続可能な経営戦略 【基礎収支の均衡】	▲1.41億円	▲1.42億円		▲0.04億円	収支均衡 (28年度)	【レベルアップ】デジタルサイネージ広告や園内広告による収入の増 【レベルアップ】インバウンド観光における動物園PRへの協力を求めることによる入園料収入の増 【レベルアップ】アフリカゾーンのネーミングライツ・サル山リニューアルのネーミングライツ等による収入の増 【レベルアップ】LED照明へ切替、光熱水利用の制限、インバータ設置による電気使用量の減	歳入・歳出決算額
	8 ソフト事業の展開 【イベント満足度】	67%	96%		100%	100% (28年度)	【新規】人気の「夜の動物園」にシニア層の来園意欲を喚起するため、昭和回帰型イベントの実施とシニア層の満足度向上 【レベルアップ】雪を使った遊びなどによるスノーフェスティバルの内容充実化と道外観光客に対する北海道の動物園ならではの魅力創出 【レベルアップ】屋外スペースに植樹を行った日陰・木漏れ日の中で寛げるエリアの創設、ベンチ等の設置	主要イベントアンケート
	9 施設整備と動物管理 【新施設や展示内容の満足度】	68%	82%		90%	100% (28年度)	【新規】ゾウ導入に係る可否の決定 【新規】旧サル山の解体、工事着手 【レベルアップ】第1駐車場の効率的・効果的な運用方法、サイン計画、エレベーターの設置位置などの検討を踏まえた将来的な改修スケジュールの策定 【レベルアップ】アフリカゾーン建物部分の工事継続(平成27年3月までの竣工) 【レベルアップ】北海道・北方圏ゾーン整備に係る新ホッキョクグマ・アザラシ館の基本設計、実施設計の完了 【レベルアップ】モンキーハウスの改修及びエンリッチメント設備の充実化 【レベルアップ】アジアゾーンの更なるエンリッチメント効果の創出。「みんなのドキドキ体験」メニューの拡充、内容の充実化による観覧満足度の向上	施設展示アンケート

目標達成

主な新着動物・出産の状況

月 日	内 容
4月10日	オグロプレリードッグ 2頭出産
4月22,23日	フンボルトペンギン 2頭来園(犬吠埼マリンパーク、新潟市水族館)
5月11~27日、6月27日	エゾユキウサギ 出産 7頭 (うち2頭死産)
6月23日	マンドリル 雄 来園(日本モンキーセンター)
7月7日	ブラッサグエノン 雌 来園(上野動物園)

主な転出動物・死亡の状況

月 日	内 容
4月25日	ナマケグマ 雌 死亡
5月3日	コツメカワウソ 雄 死亡
6月15日	グラントシマウマ 雌 死亡
6月29日	ヨウスコウワニ 3頭搬出(台北市立動物園)
7月25日	マレーグマ 雌 死亡
8月23日	グラントシマウマ 雄 死亡

札幌動飼第 87 号
平成 27 年(2015 年)8 月 10 日

札幌市保健所長 様

札幌市円山動物園
園長 田中 俊成

円山動物園におけるマレーグマ「ウッチー」死亡に係る事故報告書

当園において実施していたマレーグマの同居訓練において、平成 27 年 7 月 25 日にマレーグマ「ウッチー」を死亡させる事故が発生しましたので、下記のとおりご報告申し上げます。

記

1 マレーグマ「ウッチー」の死亡日時について

平成 27 年 7 月 25 日(土)朝 9:00 過ぎ、担当飼育員がマレーグマ「ウッチー」を屋内展示場に出そうとしたところ、バックヤードの寝室にて死亡しているのを確認しました。

2 死亡個体等

ウメキチ(オス) : 2009 年 10 月 11 日生まれ、5 歳

ウッチー(メス) : 1985 年以前生まれ、推定 30 歳以上(今回の死亡個体)

ハッピー(メス) : 2006 年 10 月 3 日生まれ、8 歳

3 担当職員等

当園は 44 名の職員配置を行っております。動物飼育は飼育展示課における業務となっております。飼育展示課は、飼育展示一係・二係で構成し、一係は「アジア・アフリカ班」及び「ふれあい班」で構成しており、マレーグマは「アジア・アフリカ班」の所管動物であり 1 名の飼育員が担当し、当該飼育員が公休の場合等においては、同班の他の飼育員がその日の飼育作業を行っております。

また、診療業務については飼育展示課に所属する獣医師 3 名が所属係に関係なく横断的に当たっています。

4 施設概要

マレーグマの同居訓練場所及び事故発生があったのは、アジアゾーン熱帯雨林館のマレーグマ舎屋外放飼場です。

5 経緯

(1) 同居の方法について

平成 27 年 4 月 2 日の課内全体会議において、今年度、ウメキチの性成熟に伴い、マレーグマの繁殖(同居訓練を含む)を開始することを決定し、課として合意形成していたところでしたが、精神安定剤等を使用するか否か、同居の開始時期・方法、同居に際しての監視体制等についての詳細な合意形成はしていませんでした。

なお、6 月に同居を開始するにあたり、年齢的にはウメキチの繁殖相手はハッピーとしていましたが、最終的には 3 頭を同居させ、お互いになれることにより、ウメキチがメスたちに対して落ち着いた行動がとれることを期待して、3 頭同居を飼育展示課として決定いたしました。

この理由として、①雄はまだ若く、過去に雄と同居生活をしていた経験のあるウッチーをも同居させることで、時間経過によりウメキチがハッピーへ接することに慣れることを期待したこと、②ウメキチとハッピーに小ぜり合いが続くこととなった場合には、もう 1 頭がいることで闘争への抑止を期待したこと、③同居訓練の前段階として、同居を続けてきたウッチーとハッピーを分けると、ハッピーが落ち着かなくなったことによります。

(2) 争いが起きた場合の対応について

まず、同居の前に、闘争対策として事前に仕切り扉を 10cm 程度開けた状態でのお見合いを複数回実施していました。

3 頭の同居時の闘争対策としては、屋外展示場～寝室、屋外展示場～屋内展示場の扉を開放し、いつでも逃げ込めるようにし、逃げ込んできた場合はすぐ仕切り扉を閉められるように準備していました。

また、背中などに深刻な咬傷を受けるような相当程度激しい闘争となることが予測される場合に、両者を分離するための放水と気を散らすための餌撒きが屋上から行えるように屋上への飼育通路確保を行っておりました。

同居に当たっては、職員は必ず付いて観察をしながら進めていました。なお、担当職員のみの日もあり複数人でない場合もありましたが、無線にて近くにいる職員をすぐ呼び出せるような体制をとっておりました。

(3) 同居後の様子について

同居後の様子についてですが、同居開始日(6月16日)は、ウメキチがハッピーに攻撃を受けており、また2頭の雌から逃げ回るなど、3頭内の順位はウメキチが最下位であったと考えられました。

その後、ウメキチとハッピーの2頭同居を試みましたが(6月19日、約1時間の同居)、同居後半にハッピーはウメキチを追い込む形になっておりました。

これはウメキチが性成熟後、他個体との同居が初めてであり、他個体に対しどのように接すればよいかわからないからであること、またハッピーは、やはりウッチーとの分離に不安があるのではないかと推定しました。

しかし、このままでは、今後、交尾等に達することが難しいであろうと考え、同居訓練開始当初から、多少の争いは想定したものの、同居の経過を経て‘仲が良い状態’にまでもって行き、ウメキチもハッピーも落ち着くことを期待しました。

この後は、2頭同居(ウメキチとハッピー、又はウメキチとウッチー)及び3頭同居を試みながら、ウメキチや雌達の行動を観察することとしました。

ウメキチとウッチーの同居訓練(6月20日及び26日)においては、それぞれ数分間の闘争があり、3頭同居訓練(7月6日)においては、ウッチーとウメキチが闘争したのち、ウメキチがハッピーに追い込まれた形となってしまいました。

これらについて課及び係としては、担当飼育員等から飼育日誌や口頭にて報告を受けていたところであり、担当飼育員、獣医師等が闘争の程度を見極めたうえで、いくら時間をかけても‘仲が良い状態’にまで持っていけそうになれば、今後は中止も視野に入れる予定をしていたところでしたが、担当飼育員に対し「同居中止」の場合の目安について具体的な指示は出してはいませんでした。

なお、担当飼育員は7月24日の闘争の状況を見て、この日限りでウッチーを同居訓練に加えることについては終了する必要があると認識していました。

【別表：同居の経過】

6/16	3 頭同居を実施(40 分間)。前半 30 分はじゃれていたが、その後、ウメキチがハッピーから咬まれ逃げたため、同居中止。なお、扉を開放し屋内・屋外共に出入り自由になっていた。
6/19, 20, 21, 22, 23, 26, 27, 28, 7/3, 4, 5	ウメキチとメスいずれかとの「2 頭同居」を実施(約 1 時間)。うち、ウメキチとウッチーの同居は 6 月 20 日、26 日。6 月 20 日は同居時間中に数分間闘争があり、26 日は同居時間中の前半に数分間闘争があったが、後半はなかった。両日を除く日は、ウメキチとハッピーとの同居を実施。
7/6	3 頭同居を実施(約 1 時間)。ウメキチとウッチーが闘争、その後ウメキチとハッピーとが闘争しそうになりウメキチが逃げた。なお、扉を開放し屋内・屋外共に出入り自由になっていた。
7/11, 12, 13, 14, 17, 18, 20, 21	ウメキチとハッピーを同居
7/24	3 頭同居を実施(約 1 時間)。ウメキチはウッチーと闘争(約 20 分間)。なお、扉を開放し屋内・屋外共に出入り自由になっていた。
7/25	朝、ウッチーの死亡確認

なお、ウッチーの他個体との同居時刻及び同居に当たって監視していた職員は以下のとおりでした。

6/16： 13 時半頃～14 時 10 分頃： 担当飼育員＋獣医師 1 名

6/20、26： 14 時半頃～15 時半頃： 担当飼育員＋飼育展示一係長

7/6： 13 時半頃～14 時 10 分頃： 担当飼育員 1 名のみ

7/24： 14 時半頃～15 時半頃： 担当飼育員 1 名のみ

(他の日は、担当飼育員＋他の飼育職員が見ていたこともあるが、記録なし。この中で、飼育展示課長は部分的に 6/26 に確認。)

(4) 7 月 24 日の同居の様子を観察して「ウメキチ」と「ウッチー」を分けるに至らなかった理由について

7 月 24 日は、近くに職員を配置していたものの、同居中の観察は担当飼育員 1 名のみで行っていました。

同居直後から、ウメキチはウッチーに対して積極的に背面に回ろうとして、それを嫌がったウッチーを押さえつけようとしていると推測したところでした。

闘争のあった約 20 分間、結果的にウッチーはウメキチに向かい合う態勢となったりし、ウメキチがウッチーに噛みつき、力づくで抑え込むような行動となりました。しか

し、首・背中への大きな咬傷となるような闘争とは捉えられず、また正面からの攻撃等もなく、致命的なことになるとは考えていませんでした。

(5) 「ウッチー」の負傷に対して獣医師がとった措置について

獣医師は、ウメキチとの同居時の後肢裂傷(7月6日)の経過を見て、化膿が確認されたことから、抗生剤の処方を行いました(7月17日から3日間分)。

7月24日については、ウッチーが寝室に入った直後(15時半過ぎ頃)、獣医師が見に行った際は、最初はせわしなく動いていましたが、呼吸は荒い状態でした。次に獣医師が、止血剤及び抗生剤の投薬のため16時頃向かった際は、多少呼吸は落ち着いてきた様子がありました。また、17時頃にもう一度確認に行った際は、落ち着いて休んでいました。なお、担当飼育員は19時頃まで断続的に観察し、リンゴを食べたのを確認していました。

なお、7月24日は、骨折やヘルニアについての発生を疑うような外観所見が見られなかったことから、当日は麻酔処置をかけてのレントゲンによる確認等は行わず、翌日の経過を見ようと考えていました。

(6) 「ウッチー」の同居訓練の継続について

結果的に肋骨骨折があったところですが、担当飼育員も、また獣医師も同居訓練期間中は確認することができませんでした。7月24日以前において治療が必要なのは、右後肢の跛行と考えていました。

また獣医師は、跛行についてはウッチーの動きを観察し、また飼育員にも聞き取り、改善傾向にあると考えていました。

なお、右肢の跛行はありましたが改善傾向であり、また細かい擦過傷等はありませんでしたが、展示に不適なほどの状況であるとの認識はありませんでした。

同居訓練開始後に、「同居訓練を始めた」、「お互いまだ慣れていないのでケンカになることもあるかもしれない」、「担当飼育員が様子を見ているので安心してほしい」旨を記載した看板を掲示していましたが、園内放送、口頭による観覧者へのお知らせ等はありませんでした。

6 死因について

死因：腸管の横隔膜ヘルニア

【剖検診断】

1. 右第12～第15肋骨の骨折
2. 肋骨の骨折端による重度の右脇腹損傷と右横隔膜の穿孔
3. 腸管の横隔膜ヘルニア

7 事故の原因について

当園において詳細に検証を行い、今回の事故につきましては以下の原因によるものとの結論に至りました。

7月24日(金)の同居訓練において20分間の闘争があったが大丈夫な状態であると見誤ったことによるものであり、獣医師の立ち会いがあれば防ぐことができた可能性がありました。これらは飼育展示課における繁殖推進体制の不備によるものです。

《具体的な事項》

- ・同居訓練開始にあたり、同居時の安全確保のため、事前の見合い、治療、同居時間、同居中断のための準備、同居時の観察人員体制及びスケジュールなどについて、飼育展示課としての検討が十分といえないまま実施に至った。
- ・また、同居時の監視体制等について、特に獣医師を含む複数の職員による観察と、同居訓練に伴う適切な判断を的確に行える体制をとっていなかった。
- ・実施の継続にあたり、訓練回ごとに、動物の行動変化、健康状態、怪我の有無等や処置などを記録し、その結果を踏まえ、組織としての可否判断を行える体制をとっていなかった。

8 速やかに改善を図ることとした事項について

今後の繁殖の推進にあたっては、動物の状態を見極め、上記7の体制不備を踏まえ、動物の同居訓練において、適切な対応を行うために、次の改善を図ることといたしました。

(1) 動物の同居訓練開始にあたって

安全確保のため、事前の見合い、精神安定剤等の使用の有無、治療、同居時間、同居中断のための準備、同居時の獣医師を含む観察人員体制及びスケジュールなどについて、飼育展示課としての合意形成を図ること。

(2) 同居訓練時の監視体制について

同居訓練においては、獣医師を含む複数職員での観察を行うこととし、訓練実施や中止などの適切な判断ができる体制を整えること。

(3) 実施の継続にあたって

動物の行動変化、健康状態、怪我の有無等や処置などの結果を踏まえ、飼育展示課としてより慎重な可否判断を行うこと。

札幌動セ第 10604 号
平成 27 年 (2015 年) 8 月 21 日

札幌市長 秋元 克広 様
(環境局円山動物園)

札幌市長 秋元 克広
(保健福祉局保健所動物管理センター)

円山動物園におけるマレーグマ「ウッチー」の死亡事案に係る改善勧告書

平成 27 年 7 月 25 日に円山動物園が飼育していたマレーグマ「ウッチー」が死亡した事案について、動物の愛護及び管理に関する法律 (昭和 48 年法律第 105 号。以下「法」という。) の第 24 条第 1 項に基づく検査を行うなどした結果、法第 21 条第 1 項の基準を遵守していなかった事実が確認できましたので、下記のとおり法第 23 条第 1 項の規定に基づき改善を勧告いたします。

なお、本事案が与える多大な社会的影響を踏まえ、勧告に従わない場合又は報告がない場合には、法第 23 条第 3 項の規定に基づく改善命令や業務の停止命令等の措置を講じる場合があります。

記

1 改善勧告の根拠となる基準違反

円山動物園における動物の管理が、第一種動物取扱業者が遵守すべき動物の管理の方法等の細目 (平成 18 年環境省告示第 20 号) 第 5 条第 1 号二及びヲ並びに同条第 2 号二に違反して行われたこと (詳細は、別紙のとおり)。

2 改善勧告の内容

- (1) 動物の繁殖推進体制のみならず、特に高齢動物や負傷動物に配慮した飼育体制及び獣医医療体制も含めた円山動物園内全ての飼育動物に係る管理体制を見直し、そのために必要な人員配置を確保するとともに、計画やマニュアルを整備するなど、法の基準に適合した適正な動物の飼育を実施できる体制を構築すること。
- (2) 法第 22 条第 1 項に規定する動物取扱責任者が中心となって、円山動物園全職員が、前記 (1) の計画やマニュアルの内容と、動物の適正飼育や飼育環境の向上に必要な事項を十分に理解するため、必要な教育を改めて実施すること。

(3) 動物の健康及び安全の保持を目的とし、新規計画中の施設、稼働前の施設及び既存の施設の総点検を実施し、必要に応じて速やかに改善措置を講じること。

3 改善勧告を受けた改善計画及び改善結果の報告

法第24条第1項の規定に基づき、上記2(1)から(3)までの改善勧告の項目ごとの改善計画については平成27年8月28日(金)までに、当該項目ごとの改善の結果については平成27年9月30日(水)までに動物管理センターへ報告するよう求める。

【担当 保健福祉局保健所動物管理センター 向井、高田、藤本 TEL:736-6134】

別紙

円山動物園職員とのウッチャーへの対応に係る関係法令の基準適合状況

事情聴取、立入検査、事故報告書から確認された円山動物園の対応	円山動物園の対応に係る動物管理センターの見解	適合しないと考える関係法令の基準*
<ul style="list-style-type: none"> 3頭同居訓練の実施にあたり、計画の策定や起案処理など書面でまとめたものは作成していなかった。 他に成功例を確認できていない3頭同居訓練を実施した。 同居訓練時にウメキチとウッチャーの闘争を確認したが、その後も同じ組み合わせで同居訓練を継続し、7月24日(金)には、約20分に及び闘争が発生した。 ウメキチとハッピーの同居訓練では、6月中は闘争を確認したが、7月には闘争もなく、4～7時間/日の同居を8回実施していたが、その後ウッチャーを含めた3頭同居訓練を実施した。 6月20日(土)、6月26日(金)、7月6日(月)の同居訓練時に闘争が起こり、それによってウッチャーが負傷を確認していたが、同居訓練を継続した。 7月24日(金)もウメキチとウッチャーの同居訓練を実施し、約20分に及び闘争が終わるまでの間、闘争を中止させるための放水などの対応を取っていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 同居訓練の組み合わせを考慮し、過度な動物間闘争等が発生することを避けるための措置が講じられていなかったと考えられる。 ウッチャーは負傷していたが、同居訓練を継続しており、訓練等が過酷なものとならないようにするための措置が講じられていなかったと考えられる。 	<p>適合しないと考える関係法令の基準*</p> <p>○第5条第1号ニ 異種又は複数の動物の飼養又は保管をする場合には、ケージ等の構造若しくは配置又は同一のケージ等内に入れる動物の組み合わせを考慮し、過度な動物間の闘争等が発生することを避けること。</p> <p>●第3 共通基準 1 (1) オ 異種又は複数の展示動物を同一施設内で飼養及び保管する場合には、展示動物の組合せを考慮した取容を行うこと。</p> <p>○第5条第1号ア 展示業者及び訓練業者にあつては、動物に演芸をさせ、又は訓練をさせる等の場合には、動物の生理、生体、習性等に配慮し、演芸、訓練等が過酷なものとならないようにすること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 7月17日(金)にウッチャーの後肢に裂傷を確認し、抗生物質を投薬したが、この裂傷は7月6日(月)の同居訓練時の闘争によって負傷したものであった。 7月24日(金)の闘争後、エサに抗生物質と止血剤を混ぜてウッチャーに与えたが、エサはほとんど食べられていなかった。 7月24日(金)もウメキチとウッチャーの同居訓練を実施し、約20分に及び闘争が終わるまでの間、闘争を中止させるための放水などの対応を取っていなかった。 7月24日(金)の闘争後に行つた獣医師による措置は、エサに抗生物質と止血剤を混ぜてウッチャーに与える、というものであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月6日(月)の闘争時の負傷に対して、獣医師による適切な診療や措置が講じられていなかったと考えられる。 実質投薬できていないことを確認した際に、他の獣医師に相談したり、他の方法による投薬を検討したりするべきであったと考えられる。 インターネット上に公開されていた7月24日(金)の闘争の動画をみる限り、獣医師や飼育員がしっかりと観察していれば、ウッチャーがかなりの栗手を負っていることは推察できたが、負傷したウッチャーを保護するための措置や獣医師による適切な措置が講じられていなかったと考えられる。 	<p>○第5条第2号ニ 動物が疾病にかかり、又は傷害を負つた場合には、速やかに必要な処置を行うとともに、必要に応じて獣医師による診療を受けさせること。</p> <p>●第3 共通基準 1 (1) イ 動物の疾病及び負傷の予防等日常の健康管理に努めるとともに、疾病にかかり、若しくは負傷し、又は死亡した動物に対しては、その原因究明を含めて、獣医師による適切な措置が講じられるようにすること。また、みだりに、疾病にかかり、又は負傷した動物の適切な保護を行わないことは、動物の虐待となるおそれがあることを十分認識すること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 6月20日(土)、6月26日(金)、7月6日(月)の同居訓練で負傷した推定30歳以上のウッチャーを隔離せずに、7月24日(金)も同居訓練を継続した。 7月24日(金)の闘争で負傷したウッチャーを、寝室においてハッピーと同居させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢かつ負傷しているウッチャーに対して、隔離したり、休息を与えたりしておらず、また十分な治療も行われていなかったと考えられる。 この掲示では、同居訓練で負傷したウッチャーを引き続き展示していることの経緯などに関する情報が不足しており、観覧者に対して十分な説明が行われていなかったと考えられる。 	<p>●第3 共通基準 1 (1) キ 疾病にかかり、若しくは負傷した動物、妊娠中の若しくは幼齢の動物を育成中の動物又は高齢の動物については、隔離し、又は治療する等の必要な措置を講ずるとともに、適切な給餌及び給水を行い、並びに休息を与えること。</p> <p>●第4 個別基準 1 (1) ア 障害を持つ動物又は治療中の動物を展示する場合は、観覧者に対して展示に至つた経緯等に関する十分な説明を行うとともに、残虐な印象を与えないように配慮すること。</p>

※ ○…法第21条第1項で規定する基準 ⇒ 施行規則第8条第1項第12号で規定する細目 ⇒ 第一種取扱業者が遵守すべき動物の管理の方法等の細目 (平成18年1月20日環境省告示第20号、最終改正平成26年5月30日環境省告示第70号)

●…展示動物の飼養及び保管に関する基準 (平成16年4月30日環境省告示第33号、最終改正：平成25年8月30日環境省告示第83号)